慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	事業ドメイン定義と多角化成果
Sub Title	
Author	小林政彦(Kobayashi, Masahiko) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第839号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0839

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.839

学生氏名　小林　政彦

主査　矢作　恒雄
副査　嶋口　充輝
和田　充夫

所属　矢作　恒雄　研究室

事業ドメイン定義と多角化成果

〔目的〕

本論文は、「どのような多角化が経済的成果において最も有効であるか」という基本的問題意識の下に作成されている。具体的には、事業領域を「誰の」、「どんなニーズを」、「どのような方法で満たすか」という3つの次元から定義することを提唱し、多角化の方向性についての分類を試みた。

次に、多角化の成否を分ける重要な要因を既存事業と新規事業間におけるシナジーに求めている。また、このシナジーを有形の相互関係という概念を中心に解明することを試みている。さらに、シナジーの源泉を経営資源に求め、経営資源が上記3軸の各々に対して投入可能であるとの立場に立ち、多角化の方向性毎の経済成果の測定を試みた。

〔研究のプロセス〕

文献研究により、事業領域の概念に関する枠組みを整理し、そこから導かれる多角化のタイポロジーを基にして経済成果に関する仮説を導出した。その仮説をアンケートによって収集したデータによって検証していった。仮説検証のためにＫＢＳに学生を派遣している企業を中心に事例を収集し、それを統計的手法に基づいて分析した。

〔主要結論〕

現時点では、サンプル数の不足によって有為な検証が行われていない。したがって、結論づけることはできないが、サンプル数が増加すれば論文中の仮説である多角化において事業領域を規定する3つの軸における関連性が多いほど経済成果は高まるという考えは検証可能と考える。